

柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1
 柿生中学校内
 電話:070-1503-6401,044-988-0004
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>
 第130号

草創期の 柿生中学校 - 4

教科書はあったのか？

小林 基男 (柿生郷土史料館専門委員)

校舎も借り物、先生もなかなか揃えきれない、それでもとにかく新制中学校はスタートしました。これは何も柿生中学校だけのことではなく、全国の新制中学校に共通した事実でした。さて授業をどうするか。

第1回に記したように、戦前戦中の日本の教育は、軍国主義教育として、占領者であるGHQによって全否定され、教育の民主化が至上命令となっていました。そのため、まったくの手探りで新しい教育プログラムを作らねばならなかったのです。教科そのものが抹消された修身は別として、新設された社会科は勿論、国語や理科、算数・数学なども民主教育に適合するよう、教科内容に大幅な変更が求められたのです。当然戦中に使われた国定教科書制度は否定され、教科書は民間で編集・作成された物の中から、各学校が選択することとされました。文部省は、民間が作成した教科書が、学習指導要領に準拠しているかどうかだけを、チェックすること(=教科書検定)とされました。

ということは、教科書作成の指針となる学習指導要領が、早くに発表されないと教科書を作成することができないこととなります。ところが肝腎の学習指導要領が「試案」という形で発表されたのは、昭和22(1947)年の3月に入ってからだったのです。当然、民間で編集・作成する教科書は、5月のスタートに間に合いません。GHQもさすがにこれはまずいと思ったのでしょうか。民間編集の教科書が発行されるまでの2ないし3か年は、文部省が教科書を作りなさいと言ってきたのです。

新制中学校のスタート時に、すべての教科書が揃うことなど、とても期待できる状況ではなかったのです。教科書作成の指針が間に合わなかったのですから当然です。尤も当時の紙不足を考え合わせると、指針が間に合ったとしても、全国の中学1、2年生全員に提供できるだけの冊数を用意することは無理だったでしょうから、教科書の不足は予定の行動だったのかもしれない。

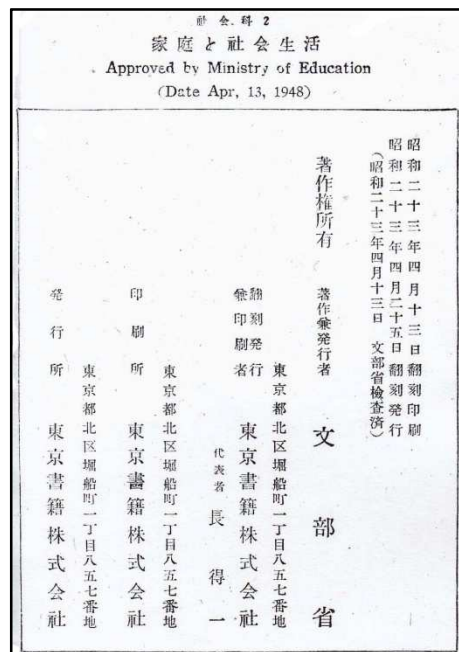
右の写真は、柿生中学校創立当時の理科と社会の教科書です。A5版1冊60頁程度の粗末な作りです。1年生用、2年生用共に全6分冊、当然次年度には3年生用の6分冊が加わり全18分冊の作りです。ですから現在の教科書の1章、2章といった章ごとの分冊として発行されたこととなります。それはいいのですが、教科書の印刷、発行日を記した奥付けをみると、理科の第1分冊、「空気はどんな働きをするか」は、昭和22年の3月22日に発行されているのですが、第2分冊「水はどのように大切か」の発行日は、何と同年11月5日なのです。1章を学び終わると、11月まで教科書がないのです。社会になるともっとひどく、第1分冊の「わが国土」は印刷後に不備があって1度回収され、修正版がようやく印刷されたのは3学期に入った1月15日、第2分冊の「家庭と社会生活」に至っては、23年の4月25日になって、やっと発行されたのです。社会については、1年間教科書がなかったのです。



初年度の理科教科書



同じく社会科教科書



23年4月25日発行とあります

右の写真は、柿生中学校創立当時の理科と社会の教科書です。A5版1冊60頁程度の粗末な作りです。1年生用、2年生用共に全6分冊、当然次年度には3年生用の6分冊が加わり全18分冊の作りです。ですから現在の教科書の1章、2章といった章ごとの分冊として発行されたこととなります。それはいいのですが、教科書の印刷、発行日を記した奥付けをみると、理科の第1分冊、「空気はどんな働きをするか」は、昭和22年の3月22日に発行されているのですが、第2分冊「水はどのように大切か」の発行日は、何と同年11月5日なのです。1章を学び終わると、11月まで教科書がないのです。社会になるともっとひどく、第1分冊の「わが国土」は印刷後に不備があって1度回収され、修正版がようやく印刷されたのは3学期に入った1月15日、第2分冊の「家庭と社会生活」に至っては、23年の4月25日になって、やっと発行されたのです。社会については、1年間教科書がなかったのです。

GHQの占領下ですから、新聞、雑誌は勿論、個人の親書などもGHQの検閲を受けた時代です。教科書もまたGHQの検閲を受け、許可が出なければ出版できない時代でした。奥付けにある英文 Approved by Ministry of Education は、GHQの検閲済を示します。日本側の執筆編成作業が遅れた上に、GHQの検閲も遅れたがゆえに、見切り発車でスタートした新制中学校の初年度は、教科書も満足にない状態でスタートせざるをえなかったのです。その間は、先生方が手探りで作られたプリントが唯一の教材だったのですが、紙不測の時代です。プリント配布も時々しか配れなかったのです。一期生として2年生の級長を務めた高瀬武治さんが、「グラウンドの草取りはよくやったけれど、勉強した記憶はあまりないよ」と語られるのも納得できます。学習については、のんびりした牧歌的な時代だったのですね。

(続く)

シリーズ
「麻生の歴史を探る」第100話

富士信仰 ～富士塚～

小島 一也 (遺稿)

早野の小字名に「富士山下」と呼ぶところがあります。これはこの地の上に「富士浅間神社」があったからで、その頂上は「仙元山」とも称する富士塚で、今は雑木に覆われ全く昔の面影はありませんが、標高僅か60m余ながら、大山丹沢連峰・富士山を望む眺望の地で、新編武蔵風土記稿早野村の項には「浅間社、除地一段一畝、村の北にあり」と記され、元禄15年(1702)早野村検地水帳にも「山壹反六畝二歩」とこの富士塚の存在が示されており、当時この地に富士信仰があったことを物語っています。この富士浅間社は、明治の合社令で「子ノ神社」に合祀されますが、現在、富士塚の下に稲荷社があり、その堂内に「富士山」と刻まれた鳥居の額石(年代不明)が納められています。

霊峰富士山を崇拜する富士信仰は古くは室町時代にあったと言われますが、最も盛んになるのは江戸中期、享保年間(1716～35)8代将軍吉宗の頃からでした。特に享保の改革や大飢饉は、江戸庶民や農民に社会不安を与えて修験道者を生み、修験者の布教は「六根清浄、六根清浄」と富士浅間社詣での「富士講」となり、これは江戸中心に808講、講中8万人と言われ、降って、天明年間(1781～88)天保年間(1830～43)に起こる江戸町民の窮乏や農民不況には世直的の信仰となり、各地に登山成就碑や、富士礼拝の富士塚が築造されていきます。

従って麻生周辺にも富士塚(浅間社)は多くあり、今でもその眺望が楽しめるのが高石・上麻生境の弘法の松公園の「富士浅間」で、ここからは、富士・丹沢から秩父連峰まで望見でき、頂上には「富士塚」の石祠があり、金程一丁目の通称地名「浅間山」には浅間神社が祀られており、黒川汁森神社裏にも、墳径6m程の塚に浅間社の小祠があります。梅澤静作家の屋敷には「登山三七度大願成就」の記念碑があります。これは黒川周辺の富士講中が、明治35年に建てたもので、碑面には先達、世話人の名、そして黒川・平尾・細山・金程、矢野口小沢城跡の浅間山には三三度大願成就碑が3基ありいずれも生田、矢野口、坂浜の村名が記されています。栗木にも地名辞典に通称「浅間谷戸」の名が残されており、谷戸の北端である平尾境に「富士塚」があったのではと思われます。片平の富士塚は、新編武蔵風土記稿に「村の西にありその由来を伝えず、二間四方の塚なり」と記され今でも存在しますが、この塚は古墳時代の円墳ともされこの地は古来鎌倉街道早ノ道の支道筋で、中世浅間社が祀られ、富士を望む景勝の地だったそうですが、今は惜しいことに銀行グラウンドに削られています。この古道の道筋には、岡上最高峰富士塚(営農団地南奈良堺)があり、今は横浜市緑区ですが、奈良には富士塚、浅間社があります。これを新編武蔵風土記稿は「浅間丘上にあり、六月朔日、近郷の者ども群集せり」と紹介しています。



「富士山」額石



池辺の富士塚

朔日(さくじつ)とは、月の第一日目を言いますが、これはこの地方の富士塚の山開きが、毎年6月1日に行われたことを語ったものです。その代表的なのが横浜緑区川和の富士塚と池辺の富士塚で「川和の富士塚」は、賀加原に安政4年(1859)延3120人によって造成され、川和富士と呼ばれましたが、港北ニュータウン建設で取り壊され、今は所を変えて川和公園に再現され、昔日そのままの偉容を見ることが出来ます。「池辺の富士塚」は、現在も星谷の農専地域に「池辺富士」と呼ばれて現存し、頂上には、寛政8年(1796)9月造立の碑があり、今でも池辺の在家の人たちは、毎年6月1日塚の草刈りを行い、今も変わらぬ富士を望んで宴を共にするそうです。

この富士塚を信仰の象徴とする富士信仰は、明治時代に入り、扶桑教、実行教そして丸山教の三つの教団に分かれます。この丸山教が川崎地域とは関わりが深い「登戸の丸山教」で、そのルーツは新編武蔵風土記稿登戸村の項に「浅間社、村の巽(東南)の方にあり、わずかなる祠にて社地塚の如く一の丘をなせり」とあり塚上の石祠には「文化三年(1806)四月七日、中田富士塚氏子中」と刻まれています。これは当地の富士講の先達清宮伝左衛門が富士塚を築き浅間社を祀り富士信仰を広めていったもので、その伝左衛門の分家筋源六の二男に幼名米吉(文政12年 1929 生まれ)がいました。この米吉が後の丸山教祖伊藤六郎兵衛で、米吉は、幼いころの伝左衛門の感化と厳しい修験道によって、全国信徒100万人を持つ丸山教団を設立します。時は文明開化の維新の頃、時と共に神がかり的な富士信仰はその衰えをみせていきます。

(参考文献)「川崎市史」「歴史の舞台を歩く(相沢雅稚)」「七つ池とともに(早野郷土記念)」

シリーズ
教育の歩み 第1部

学校の誕生と成長(18)

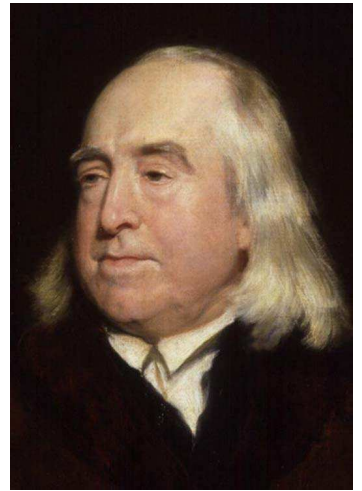
小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

◆高等教育の改革◆

イギリスの中等教育の改革は、中産階級の教育要求を活かす形で、パブリックスクールをも巻き込みながら、進められました。そこでは、伝統的なジェントルマン教育の根幹を残しながら、新しく成長してきた中産階級の実力を認め、彼らをエスタブリッシュメントの仲間内に取り込むことで、上・中流階級の子弟の融合を図ることが目指されたのです。改革は、中流階級のジェントルマン化を促す形で行われました。これが今日まで、「イギリスという国には、二つの国民が存在する。」と語られる、「一国二国民」状態を固定化した原因となったのです。

パブリックスクールの問題を議論した、1868年の委員会報告は、「これらの学校は、われらが政治家たちを生み出す、最大の温床であった。パブリックスクールで、イギリス社会を構成するあらゆる階級の人々が教育され、寮生活を通じて不滅の友情を結び、彼らの人生を決定づける諸々の習慣を身に着けたのである。そして、おそらく彼らこそが、イギリス・ジェントルマンの性格形成に最も大きく寄与してきたのである。」と記しています。

高等教育の牙城、オックス・ブリッジもまた中産階級による改革圧力にさらされました。圧力は、イギリス国教会の信徒でなければ入学を許されず、非国教徒とりわけピューリタンの入学が許されない現実に向かいました。こうした現実の前で、中産階級は、高等教育の大衆化を訴え、「すべての人に開かれた大学」の設立を主張するジェレミー・ベンサムを精神的支柱に団結し、新しい大学を作る運動を始めたのです。運動の成果は、1826年のロンドン・ユニヴァシティの創立に結実しました。性別・人種・宗教・政治思想など、一切の入学差別を廃止した、まったく新しいタイプの高等教育機関の誕生でした。この「大学」では、古典研究は単なる1学科として設けられているだけで、法学、経済学、数学、自然哲学、動植物学、生理学、解剖学、薬学、天文学などが、ほぼ均等な比重で配置されていました。



ジェレミー・ベンサム

ロンドン・ユニヴァシティは、ピューリタンの熱烈な支持を集めました。信仰から独立した最初の大学として誕生しただけに、保守派やオックス・ブリッジ2大学から強い反発を受けました。オックス・ブリッジは大学としての学位授与に必要な王立憲章(Royal Charter)を認めないよう国教会と王室に働きかけたのです。国教会の大主教も、無宗教を標榜する大学の誕生を憂慮し、ロンドン市内に国教会の意図を反映した大学の設立を提言する書簡を発表したのです。書簡を読んだ国王ジョージ4世は、首相のウェリントン

の意見を参考にしながら、1829年にキングスカレッジロンドン(KCL)の設立を認可したのです。



1827年頃に描かれたUCLの全景(当時のスケッチ)

こうしてロンドン市内に二つの大学が並立したのですが、学位の授与に必要な王立憲章を認可できる大学は、一つの都市に一つの大学と決められているため、市内に2つの大学の存在がネックとなって、創立後しばらくは学位の授与ができないままとなったのです。ピューリタンの支持を受けるロンドンユニヴァシティは、毎年多くの入学志願者を集めて活気に溢れており、その勢いを無視してKCLにだけ学位の授与を認めることは、もはや現実的ではなかったのです。ここに時の大法官ヘンリー・ブロハムが仲裁に入り、

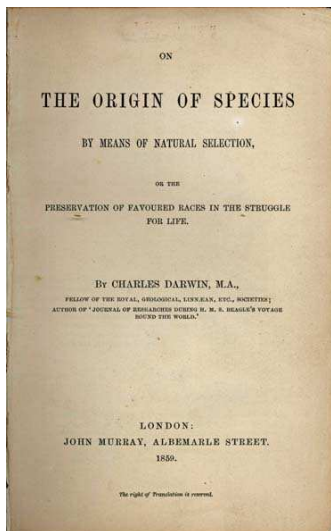
両大学がカレッジとして、共にロンドン大学の一部を構成する形とすることで、問題の解決を図ったのです。ここにユニヴァシティカレッジロンドン(UCL)とキングスカレッジロンドン(KCL)の両者を一体とした、ロンドン大学が正式に誕生する運びとなったのです。1836年のことでした。

新設のロンドン大学の隆盛に押される形で、オックス・ブリッジ両大学の改革がようやく本格的に進み始めるのは、何と1850年代に入ってからでした。ここに非国教徒に学位の取得を認めない制限は撤廃され、プロテスタントの若者に対する入学制限も、ようやく廃止されるに至ったのです。

次回から第2部として、学級制の問題に踏み込むことにいたします。(第1部終)

◆閑話休題◆

宗教による差別を撤廃したUCLの誕生は、イギリスにおける科学の発展に大きく貢献することになりました。その大きな成果の一つに、1859年のダーウィンによる『種の起源』の発表があります。彼の進化論は、当時のキリスト教思想を真っ向から否定するものでしたから、オックス・ブリッジ両大学では発表することが許されなかったのです。こうしてダーウィンは、唯一の無宗教大学だったUCLに発表の場を見出したのです。



『種の起源』
1859年の初版本の表紙

柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日:奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

3月 3・10・17・24日(毎日曜日)

4月 6・13・20・27日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時 (3月31日は休館です)

柿生郷土史料館友の会
第10回史跡見学バスの旅

近代日本のルーツを訪ねる上州路の旅 ～キリスト教会と生糸産業～

日 時 : 2019年4月18日(木)

主な見学先 : 安中教会 新島襄記念会堂
富岡製糸場

募集人員 : 先着44名

集 合 : 午前7時45分 新百合丘駅北口

解 散 : 午後6時30分頃(新百合丘駅北口→柿生駅付近)

費 用 : 9,000円

申し込み : 往復はがきに必要事項を記入の上、柿生郷土史料館まで

必要事項 : 参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先電話番号

送付先 : 215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館
(お近くの史料館支援委員にお渡しいただいても結構です)

申込締切 : 3月25日(月)

問合せ先 : 小林基男 (080-5513-5154 または 044-989-0622)

明治維新150周年記念 協賛企画 第3弾

第79回
カルチャーセミナー

明治政府の功罪

徳川幕府に変わって権力を掌握した明治政府は、日本を植民地にしようとする欧米列強の攻勢に耐えて、いかに独立を守り抜くかという困難な課題を見事に果たしました。この功績は大変大きなものですが、他方で、1894～95年(明治27～28年)の日清戦争を皮切りに、10年ごとに対外侵略戦争を繰り返すという、軍事大国化し、ついにはアジア・太平洋戦争という無謀な戦争に突入して、自滅するという負の面も持っていました。なぜそうなったのかについて、わかりやすく解説します。

講師 : 小林 基男氏 (柿生郷土史料館専門委員)

日時 : 3月17日(日) 午後1時30分～3時30分

会場 : 柿生郷土史料館特別展示室

第16回 特別企画展

「くらしの窓」に見る柿生地区の今昔 その4 ～ 平成前期 ～

昭和30年創刊の地域のミニコミ誌「くらしの窓」が捉えてきた地域の姿を紹介してまいりましたが、今回は昭和の終わりから、平成前期を中心に、人口急増期の地元の変貌の過程を紹介できればと考えています。

期間 2月16日(土)～6月15日(土) 会場 柿生郷土史料館特別展示室

お詫びとご報告

1月13日に予定していた、武相地域の自由民権運動に関する連続講座の1回目、松崎稔氏の「武相地域の民権運動とその特徴」は、講師のご都合で日延べとなりました。皆さまへの事前連絡が行き届かず、ご迷惑をおかけしましたこと、紙面にてお詫びいたします。

なお、日延べとなった松崎氏のセミナーは、4月後半か5月前半での実施を念頭に、現在調整中です。決まり次第「柿生文化」の紙面とホームページにてお知らせいたします。